

内郷村報

住職と檀家

大内民恵

救急金貸與開始

磐城炭礦では、従業員の
利便を計る目的を以て、此
度誓約あるものにして、特

交通安全

九日磐城劇場に開催、頗る
盛會であつた。
デーである七
廿七日には

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總和と總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

風光明媚、それに設備完全

湯量豊富、物價低廉と来て
居るので、療養向には申分
ない處と思はれた。

三郡の山風みちし香田かな
蚊張にれて山近く見ゆりかな
鮮つくる母にあやかり女の子
白石 鈴木綾園
一八や産屋にしげき女客
小貞子

本紙發行は大内一家の事業にし
て、其の社説は子孫に對する遺
言を兼ねるものなり。

今月は舊お盆の月でもあ
るので、かうした題目で、
聊か所感を述べて見やうと
思ふ。

我炭礦における数千の家
庭は、一室一家の狭き生活
ではあるが、神棚と佛壇の
ない家は、殆ど一軒もなく
之を尊信しない人も亦殆ど
一人もなかるべく、死後は
必ず佛葬によるといふ有様
である。まことに頼もしく
もあり、又此上もない結構
な事であると思はれる。

然るに我々は、當地在住
以來、常に耳にして不快に
感ずる事は、住職に對して
一種侮蔑の氣分で、「坊主」
「あの坊主」「この坊主」と
呼び捨てにして、一種の乞
食か、葬式屋でもあるかの
様に思つて居る事である。

證義の一句を引いて見るが
「南無歸依佛、南無歸依法
南無歸依僧、
佛は是れ大師
なるが故に歸
依す、法は良
藥なるが故に
歸依す、僧は
勝友なるが故
に歸依す、佛
弟子となるこ
と必ず三歸に
依る云々」といつて、佛様
と佛法と僧侶とを三寶と稱
して、之に歸依する事即ち
信仰して我一身を依託する
事が、信仰生活の第一歩で
あるといつて居るのである
然るに佛様を尊信し、佛法
を信仰して居る人々が、其
と同格である僧侶に對して
のみ、上述の様な態度であ
るときは、まことに以て相濟

- 次に應に三聚淨戒を受け奉るべし、第一攝律儀戒、第二攝善法戒、第三攝衆生戒なり、次に應に十重禁戒を受け奉るべし、第一不殺生戒、第二不偷盜戒、第三不邪淫戒、第四不妄語戒、第五不酤酒戒、第六不說過戒、第七不自讚毀他戒、第八不慳法財戒、第九不眞惠戒、第十不謗三寶戒なり、上來、三歸、三聚淨戒、十重禁戒、是れ諸佛の受持したまふ所なり。
- (修證義の一節)

まぬ事であると思はれる。
そこで事ここらに到つた原
因は何處にあるかと考へて
見るに、もとより佛様の尊
い事、佛法の有り難い事に
は、古今を通じて變りはない
のであるが、其佛様の御
慈悲なり、佛法の有り難い
いはれなりを、一般に取次
ぎ説き教へ、勝友即ち先達
となり師匠となつて模範を
示すべき筈の僧侶達が、果

して其任務を遂行して居る
か否かから、こうした事に
なつて來たのではないかと
思はれる。
全國中殊に北陸筋や中國
方面を旅行して、痛切に感
ずる事は、各宗を通じて、
お寺が立派である事と、住
職を尊信する事とである。

は之を實行せんと努力修養
しつゝある人幾人かあるで
ある。世は如何に不況不景
氣とはいへ、檀家を有し、
幾分でも不動産を有するお
寺に在つては、比較的其生
活には困る事はなく、即ち
衣食足るが故に、却つて緊
張を缺き、しかも其本分を
忘れてあるかの様に思はれ
る。既成宗教全体が、世の
非難攻撃をうくるに至れる

歸依する事を
擧げ、次に三
聚淨戒、十重
禁戒といつて
それら實行
すべき戒律を
示してあるの
であるが、遺
憾ながら我僧
侶の内に、之
を實行し、又

樣とかと尊敬し、
家との關係は、恰も師弟親
子の如く、従つて其信仰狀
態も、徹底して居る様に思
はれる。
勿論之を全國的一般的に
佛敎の僧侶、基敎の牧師等
を概観するに、最も少數の
例外は別として、其多數は
どうも量目に見ても、墮落
して居るのではないかと思
はれる。前に例にあげた修
證義に於ては、先づ三寶に

は、必竟敎役者中かゝる人
々の少なくない事も、其理
由の一つとなつて居る事は
争はれない事實である。か
うした流れが知らず、我
村にもはいつて來て、住職
方に對しても、つい失禮な
呼稱や態度を、とる様にな
つたのではあるまいか。

願みるに我村には、現在
住職の在任せらるゝ寺は、
願成寺、清光院、瑞芳寺、
眞光院の四ヶ寺で、其住職
である諸師は、何れも深き
信仰を有せられ、上述の戒
律の如きは申分なく實行せ
られ、布敎は勿論進んで社
會事業に迄、奉仕せられて
居る事は、世間周知の事だ
であると思はれる。

た、縁なき衆生は度し
難し、遺憾ながら今日
まで、住職と檀家の間に
よき因縁がなかつた爲に、
今日の如き忌はしき状態を
醸成したのではあるまいか
と思はれる。こゝに記者は
來るべきお盆を機縁に、双
方よりかうした意氣組で、
相會し相寄り、お互に心か
ら三寶に歸依し、進んで三
聚淨戒、十重禁戒を奉体し
て、うつくしき悟りの境界
に進む様に致したいもので
あると、念願してやまない
次第である。

内町上綴下綴方面

共済委員活動

以上三方面の委員諸氏は六月二十六日役場に會合、諸般の打合せをなし、七月五日午前八時を期して、全員活動を開始し、午後三時終了した。内町方面は會員一〇三人、會費白米八斗九升、金拾九圓六拾錢。上綴方面は會員二四四人、會費白米一石七斗一升五合、金四拾參圓拾錢。下綴方面は會員六九人、會費白米五斗金拾圓九拾五錢の好成績を挙げた。而して出勤したる人々は左の通りである。

の石を拾つて徒渉する處から、俗に石橋と稱して居つたのであるが、高萩又藏、鈴木發見、草野彦太郎、高萩忠太郎、草野與平、草野啓助等十三氏發起者となり、區長藁谷豊之助氏之に聲援して、寄附金を募集し、會社よりは樞板、鐵材等を寄贈し、澁澤坂場兩氏奉仕的に請負ひ、巾六尺長五間の見事なる橋梁が竣工したので、七月十日昭和館に於て、其落成式を舉行了した。

石橋落成式

字金坂より代に通ずる里道を貫流する宮川には、從來橋らしき橋がなく、河中

矢野恒太序 大内民惠著

教育制度改革概論

(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

薰陶園視察

近頃本村にも、遺憾ながら、少年が現はれるので、之が指導上の参考にもと、野



共済會内町上綴下綴方面

我薰陶園は、南崎園長夫妻をはじめ、職員一同の經營を以し、職員の同様の經營が開放的で、春風駘蕩恰も園長を中心とせる家塾でもあるかの様な感に打たれた。而して毎年卒業生數名づつを南米に渡航させて、歡喜を南米に渡航されて居る。中央に東郷元師、蘇峯學人等多數の知名の士を、聲援者に有する事も、卒業完成上、偉大なる効果を有する事と思はれた。記者は望まると、園生に對して一席の講話を試みて歸つた。

磐中保護者會

評議員三名囑託

既報の通り縣立磐城中學校では、保護者會創立畫策中の處、いよく實現し、郡内を十方部に分け、二十五人の評議員を囑託したが、本村では、菅原高治郎、菅波忠治、大内民惠の三氏である。而して汽車通學生係、緩驛擔任として、片寄登喜雄、木内左門の二生が任命された。

武徳大會

内郷武徳會に於ては、七月十日委員協議會を開きて、諸般の協議を遂げ、同二十日六日同武徳殿に演武大會開

納稅組合表彰

縣下一般を通じて、納稅

滞納を聞く時に、本村に於ては二十三の納稅組合あり、全部完納の好成績を挙げたるを以て、七月二十五日役場に於て、其表彰式を舉行し、村長の式辭、詔書奉讀、表彰狀並に金壹封の授與、訓辭、稅務署長略儀ながら紙上を以て暑中の御機嫌を奉伺仕候。昭和六年八月一日 大内民惠 家内一同

水稲品評會

七月二十五日役場に於て

同會の褒賞狀授與式を舉げて、野木村長の式辭、賞狀授與、油井審査委員の成績報告があつた。一等賞を得たるは、緑川顯司、鈴木吉松、志賀傳吉、野田辰次郎の四氏で、尚二等七人、三等十三人、四等十三人の受賞者があつた。

改名廣告

御殿十二區社宅世話役 舊名嘉吉事 蘇武璋三

日本評論社

發行所 東京九ノ内昭和ビル

内郷村報社

磐炭役付の見學

豐間見學

健保組合會議

建保無料兌交易

磐炭職員異動

字金坂より代に通ずる里道を貫流する宮川には、從來橋らしき橋がなく、河中

て祝宴に移り、浪花節の余興等もあつて、なか／＼の盛會であつた。來賓は村長

内郷武徳會に於ては、七月十日委員協議會を開きて諸般の協議を遂げ、同二十

六日同武徳殿に演式大會開

等十三人の受賞者があつた
御殿十二區社宅世話役
舊名嘉吉事 蘇武璋三

矢野恒太序 大内民惠著 教育部之吉序 大内民惠著 教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵稅六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同致學に迫らる。味住、不思感激ニ打テ申候云々。

我國教育學界の權威
京大教授小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯愛國ノ大精神ヲ拜

發行所 日本評論社
東京九ノ内昭和ビル
取次所 内郷村報社

磐炭役付の豊間見學

年中の一行事である、磐炭役付の慰勞を兼ねての大會は、七月二十六日豊間見學となつて實現せられた。

此日午前七時一行百四十名は、礦業所前に集合、濱崎課長指揮の下に、會田病院

長宮内礦務課長も、賓客として之に参加し、五臺の大

型自動車に分乗して出發、沼の内にて下車、辨財天に

參詣、それより徒歩海岸傳へに薄磯を経て鹽屋岬燈臺

に到り、志賀村長の案内にて登臺、田口看守長の詳細

なる説明により、具さに見念撮影をなし、會場豊頼館

に到れば、鈴木助役志田巡查をはじめ、役場吏員一同

の歓迎幹旋あり、十二時半宴を開き、先づ濱崎課長立

つて、役付一同並に志賀村長はじめ諸員の勞を痛つて

一場の挨拶を述べれば、志賀村長は直ちに立つて、熱

誠をこめて歓迎の辭を述べ酒盃滿場に行きわたり、紅

裙之に酌し、大平洋上より吹き來る涼風で、全館を包

まるゝや、一同陶然又恍惚濱崎課長例のよい聲で、例

の「智者は治に居て」の音頭をこれば、全員之に和し打ち寄する波亦之に伴奏。

龍頭蛇尾式都々逸で其令名を馳せた會田病院長

やをら威儀を正して、悠然謠曲

鴉飼の鴉の段を彼岸米國にも達

するやと思はる聲量で、朗々

誦はれたのは一同襟を正し、

忽ち龍頭龍尾の讚辭起る。つい

て接待役の猪狩鈴木兩務務鮮や

かに其手腕を振つて、珍藝百出

一同歡を盡して夕刻歸山した。

此一日の行樂見學に對して、特に「豊間名所

舊蹟」を印刷して全員に配付せられ、且つ

到らざるなき、案内接待の勞をとられた、志賀村長は

しめ役場吏員一同並志田田口兩氏の厚意に對しては、

一行全員が深く感謝して居

健保組合會議

磐炭保險組合では、八月三十日集會所に、第十八回組合會議を招集、出席議員

現在 法定準備積金は、五萬五千余圓の多きに達したる由。

健保無料脱衣場

磐炭健康保險組合では、被保險者並其家族の爲に、

今月も八月一日から同月三十日迄、小名濱、四倉の兩

海岸に無料脱衣場を設定して、海水浴の便を圖る事に

した。其指定脱衣場は、四倉 にごら屋。

小名濱 新よね。

の二ヶ所である。

理髮組合の表彰

既報の通り、同組合が村内四小學校の貧困兒童に對して、無料理髮をなしたる

美舉に對して、七月二十五日役場に於て、其表彰式を

舉行し、それ／＼表彰狀を授與したる由。

校旗披露式

宮小學校同窓會員發起となり、同校々旗作製の爲に奔走中であつたが、遂に其

目的を達して、七月二十六日同校に於て、盛大なる披

露式があつた。寄附金總額

壹百貳拾七圓五拾錢。支出

は壹百六圓校旗、貳拾圓六

拾六錢離費で、差引殘金八

拾四錢の決算を見たる由。

磐炭職員異動

四月以降に行はれたる重なる異動左の如し。

綴坑勤務 土谷助次

同 谷口朝壽

高坂分院同 吉田久雄

内郷分院同 御代富彌

高坂分院同 馬上文重

礦務課長 宮内肇

發電係主任 箱崎清一

製作係主任 林田滿

會計課長心得齋藤祐治

高坂坑勤務 赤津三郎

綴坑長 湊慶三郎

高坂坑長 三澤義則

第三斜坑長 小野晃

兼住吉坑長 田寺茂實

會計課勤務 小林正巳

同 宮川浩

同 柏原秀藏

同 八島義忠

同 粒來宗吉

同 名久井祿三

同 鈴木秀雄

同 鈴木義教

同 鈴木正壽

同 新妻育太郎

同 吉田繁雄

同 沼田淳一郎

同 藤田修造

同 藤森貫三

同 駒木根三好

綴坑 同

本紙贊助金寄附芳名

一金壹圓 茨城 小南不二男

一金壹圓 同 隈元國隆

一金五圓 北海道 小笠原千代治

菅原所長の

北海道視察

磐城炭礦々業所長菅原萬治郎氏は、石炭礦業聯合會主権、北海道炭礦港灣視察團に加はり、七月十三日出發、三井砂川炭礦、三菱三井美唄炭礦、明治昭和炭礦、淺野雨龍炭礦、大平洋炭礦、釧路礦業所、同積込設備、釧路港、住友上歌志内炭礦、三菱大夕張炭礦、炭礦汽船夕張礦、輪西製鐵所、室蘭製鋼所、室蘭港積込設備、鐵道省新積込工事等を、親しく視察見學して、同二十七日無事歸山せられた。技術並經營方面は勿論人事方面等に至る迄少なからざる參考資料を蒐集して、來られたそうであるから、後日機會を得て、紹介する事にする。



菅原所長

磐炭衛生近況

全山の従業員使用の各便所に、七月下旬より石油乳劑の撤布を實施し、下水道掃除を勵行し、特に御殿方面では、親和會幹部率先して、自發的に便所の洒掃を開始し好成績を擧げつゝある由。

磐炭健康

保險組合の補缺議員の選舉は七月二十六日舉行浦井智太郎、伊藤長助の兩氏當選。氏講演會は七月十二日昭和館に開講。義士談、探偵談の二席で、聽衆滿堂の盛況。

比佐陸軍

參典官の任官祝賀會は、七月五日内郷民政同志會主催で昭和館に開催、盛會を極む。

政友會

の議會報告演説會は七月十九日磐城劇場に開催、頗る盛會であつた。

交通安全

デーである七月廿七日には、九日磐城劇場に開催、頗る盛會であつた。

救急金貸與開始

磐城炭礦では、従業員の利便を計る目的を以て、此度警約あるものにして、特

内郷村報の

六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共濟事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村に本村出身者及本村關係者の聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

所轄請願と務務課と協同し

て、要所々々にポスターを貼付し、之が喧傳に努めたるを以て、全山事故皆無。

礦泉開業

遠藤清太郎氏は御厩の木勝礦泉跡地、全國各地名湯の湯花を取寄せて礦泉旅館を開業する計畫を立て、目下其準備中の由であるが、全山から大に期待されて居る。

新舞子

高木撫山 沙風に松の花粉の飛ぶ許り揚げ舟や濱豌豆の咲き續く春風や松の中なる蜆茶屋

青根温泉

記者は天の一大に靜養して活動せよと、一大福音があつたので、家族同伴で、同温泉青嶺閣に一週間を暮して來た。流石は新百景のただけあつて、風光明媚、それに設備完全湯量豊富、物價低廉と來て居るので、療養向には申分ない處と思はれた。

短歌

東京 遠藤二郎
ひざつきて靴の紐を我はむ
道なわく子にさく人のため(組)
この歎たたくしならず國を思ふな
けきなりさて友はきかみつ(歎)
人毎のこちなき陸なかがのみて海
さなすべき大濤かな(海)
野馬追 杉田 高橋直記
いさみたつ駒の手綱を引しめて
今かけていんもの、ふのむれ
も、ふの猛き心もあらはれて
昔おほゆるこれのみまつり

麥笛吟社
花高くもちしカンナや土用入
ややくに藝喰虫を見つたり
たしなめ酒でありけり冷豆腐
夏の露置く葉置かぬ葉ありにけり
村口に大織立つ祭りがな
夜祭の句をべく作る語でけり
孔雀草咲き初む園の土用かな
燈を入れてからの人出や夏祭
亡きななりし百足でありにけり
青田風通ふ座敷を選びけり
長雨の續くがま、に土用入
祭難免引いて階のぼりけり
さし芽菊土用盛りに移しけり
三郡の山風みちし菅田かな
蚊張にれて山近く見ゆ泊りかな
鮮つくる母にあやかり女の子
白石 鈴木綾園
一八や産屋にしげき女登
同 貞子

讀者の希望

私は近頃當地に移住して日用品一切を販賣所から購求して居る者であるが鈴木主任をばじめ所員一同頗る親切丁寧で一々有り難うと挨拶をかへされるのには却つて恐縮する位で下手な商店で買物をするより遙かに心持がよいそれに所内の商品は一條みだれず陳列してあるので響の聲に應ずるが如く迅速に取揃へてくれるのには全く感心させられる。どうか貴紙上に於て御禮を申し上げて下さい。

餘録

ついで此間の事であるが平町の新聞に我内郷村の社會事業や教育後援事業の徹底振興の一村の平和振りを賞讃し何事にも紛争の多い我平町民に炭礦の進水でも飲ませたい云々とも羨まじげに書き立て、あつた△され△鐵礦ならぬ我炭礦には御生情にも進水はないから粉炭の洗ひ水を鐵礦にして平和水とでも銘を打つて平町は勿論若松郡山等縣下わからずやの炭層に賣出して頭の改造を圖るに共に一儲けしたいものである△炭炭役付の豊間見學で務務課員全員出陣ひ留守師團長として殘されたのが當番の井上少尉閣下一人思ひな△同僚之を相憐み「片思ひな△世間は憎くらしい主私私相思仲」さあつて大飽二個をお土産として持ち歸つたので同君その通り△ベターハーフよさばかり大恐悦△安全週間の或日坂口で「お早う皆さん今日も骨折つて働いて下さい云々」といふボヤキを見たり一人「なんのこつた骨を折つては安全ではない我々は須らく精を出して働かうではないか」で一同洪笑之もその通り、で衆議一決湯の宿のヘラかつがせし夕飯後

本紙發行は大内一家の事業に

て、其の社説は子孫に對する遺言を發するものなり。

職と檀

は、必竟教役者中かゝる人々の少なくない事も、其理由の一つとなつて居る事は争はれない事實である。か

因は何處にあるかと考へて

まぬ事であると思はれる。

そこ事ごとくに到つた原

家の如く、從つて其信仰状